

4か月児健康診査で保健師がとらえている親子関係

著者	玉水 里美
発行年	2007-03-26
URL	http://hdl.handle.net/10422/420

氏 名 (本籍)	玉 水 里 美 (滋賀県)
学位の種 類	修 士 (看護学)
学位記番 号	修 士 第 8 7 号
学位授与年月日	平成1 9 年 3 月 2 6 日
学位論文題目	4 か月児健康診査で保健師がとらえている親子関係

論文内容要旨

※整理番号	89	(ふりがな) 氏 名	たま みず さと み 玉 水 里 美
修士論文題目	4 か月児健康診査で保健師がとらえている親子関係		
<p>1. 研究の目的</p> <p>本研究の目的は、4 か月児健診において、保健師が親子関係をどのようにみているのかを明らかにすることである。</p> <p>2. 研究方法</p> <p>質的帰納的研究方法を用いた。滋賀県・大阪府内の市町村に 5 年以上勤務し、4 か月児健診に 3 年以上従事した経験のある保健師 10 名を対象に、半構成的面接を行った。調査期間は平成 18 年 4 月から 9 月で、データは KJ 法の手法を取り入れて分析した。</p> <p>3. 結果および考察</p> <p>保健師の平均経験年数は、17.3 年 (SD5.7) で、4 か月児健診への平均従事年数は、14.3 年 (SD6.5) であった。面接によって得られた 1,105 の意味項目から、8 の上位カテゴリー、22 の中位カテゴリー、80 の下位カテゴリーを抽出した。上位カテゴリーは、【保健師の力量】、【他機関・スタッフ間の協働】、【親の実態】、【子の実態】、【親子の関わり】、【親子の距離感】、【育児基盤】、【育児状況】、であった。</p> <p>保健師は健診に臨んで、その地域の特性を把握した上で、一人ひとりが母子保健活動を通じて培った保健師としてのスキルを発揮するという【保健師の力量】を基にしながら、【他機関・スタッフ間の協働】により親子関係をとらえようとしていた。これらの【保健師の力量】と【他機関・スタッフ間の協働】は、保健師が 4 か月児健診で親子関係をとらえる前提となるものであった。</p> <p>保健師は親子それぞれ【親の実態】と【子の実態】をみながら、様々な【親子の関わり】をとらえていた。これには、親から子どもへの関わりだけでなく、子どもの反応への親の対応、そして子どもの生理的ニーズを満たすための親の子どもへの日常的世話が含まれていた。保健師は、これらの【親子の関わり】を観察しながら、【親子の距離感】を感じ取っていた。それは、親子の醸し出す雰囲気や親が子どもに寄せるまなざしなどから親子に対して感じる一体感と、それとは対照的な回避感という親の子どもへの接近状態を感じ取り、さらに、親の子どもへの思いも含めてとらえていくことであった。このように保健師は、親子間の行動的なやりとりだけでなく、二者間の情動的なつながりも独特の雰囲気として感じ取っているものと考えられた。</p> <p>保健師は、【親子の関わり】の背後にあるものとして、親の日常の【育児基盤】が整っているかと、実際にどのような育児が行われているのかという親の【育児状況】をとらえていた。保健師は、これらのことを親子関係に影響を及ぼすものとしてとらえることの重要性を感じていた。</p> <p>4. 総括</p> <p>本研究の結果は、親子関係の形成途上にある段階で、保健師がその関係をとらえ、援助していく上で基礎的な資料になると考える。今後は、保健師がみていた項目が十分なものであるかどうかを親子の姿からも検証していき、4 か月児健診における親子関係の見方を明確にしていくことが必要であると考ええる。</p>			

(備考) 1. 研究の目的・方法・結果・考察・総括の順に記載すること。(1200 字程度)
2. ※印の欄には記入しないこと。